

## 1 はじめに

関市は、岐阜県のほぼ中央部にあり、清流長良川の中流に位置しています。東西延長は約39km、南北延長は約43kmのV字型の地形をしています。北部地域は緑に恵まれ、南部地域は平地が広がり、長良川、板取川、津保川、武儀川が流れる水と緑の豊かな自然に恵まれた水と緑の交流文化都市です。平成22年6月には、天皇皇后両陛下がご臨席される3大行事のひとつ「全国豊かな海づくり大会」が本市で開催されます。海のない岐阜県で河川での開催は全国で初めてで、水産業の振興と「森・林・海」が一体となった水環境の重要性を発信します。

また、「刃物のまち・せき」として全国に名が知られ、「関の孫六」「兼定」など全国に名を馳せる多くの刀匠を生み出しています。その豊かな技術と伝統を継承し、刃物産業が本市固有の地場産業として受け継がれ、国際刃物都市として進展しています。

## 2 消防団の状況

関市消防団は、1団本部、6方面隊、23分団、条例定数1,315名（実員数1,190名）で組織されています。（平成21年4月1日現在）

全国的に消防団員数が年々減少し、会社勤めをしている団員の割合が増大してきています。関市消防団においても、火災等の災害現場に出動し、消防団員の活動を支援する機能別消防団員の「災害支援団員」を平成20年度より初めて導入し、かつて消防団員を長年経験されたOBの方を任用して団員確保に努めています。

因みに本年4月1日現在で21名の方を任用しています。また、平成20年度の会社勤めをしている団員の割合は約85%と高く、事業所等側の消防団活動に対する一層の理解と協力が不可欠なことから、消防庁が平成19年1月から運用を始めた「消防団協力事業所表示制度」を本市も平成21年3月5日から開始し、4月1日に17事業所を認定しました。

## 3 防災バス導入の経緯

冬季に多発する高齢者世帯などの出火は深夜が多く、鎮火後は地元消防団が朝までとどまり警戒することが通常ですが、雨や雪の中、トイレ、仮眠、食事などが不便で過酷な状況下の中、勤めなければなりません。

このような事情から本市では、自然災害時及び火災・洪水などの緊急事態時の関係者の移動、資材搬送などの後方支援、現地災害対策本部、現地関係者への施設及び消防団員の福利厚生施設などとして、また平常時は市民の防災意識の向上のための研修・視察等に活用することを目的に平成21年3月26日に「防災バス」を整備しました。防災バスの導入により、火災現場や災害発生時に消防団員や関係者が安心して活動・利用ができるだけでなく、その他、被災者・ボランティア・資機材の輸送やけが人の応急救護所、現地での対策会議など長期化する復旧に活用できます。

また、防災バスの愛称を市民から募集しました。数多くの応募から選考した結果、安全・安心に市民が関心を持ってほしいとの願いからつけられた「あんしん号」に決定しました。



関市-防災バス



関市-防災バスを見上げている子ども達

## 4 防災バスの主な機能・装備

防災バスは、全長約12m、高さ約3.5m、27人乗り、トイレ付きの大型バスです。室内は、カーナビゲーション、カラーモニター、CD・DVDデッキ、ビデオデッキ、防災無線機、衛星電話機、発電機などを搭載しています。室外は、赤色回転灯、警告灯、照明灯を設置し、消防用自動車として登録しています。

備品は、救護用品・応急手当用品・非常食・毛布・消火器・チェンソー・ロープ・バール・のこぎりの他、バス左側面を利用した組立式テントなども配備しています。

バス屋根面にはヘリコプター等上空から確認できるよう「岐阜 関防災」の表示を、バス正面及び左側面には愛称「あんしん号」の名前を、バス側面には市の鳥「かわせみ」をデザインしたキャラクターを表示しました。

## 5 災害時の運用状況

防災バスの運用がスタートした直後の4月3日に建物火災が発生しました。火災の状況及び消防団員の支援を要することから、防災バスを出動し、火災現場近くに待機しました。春といってもやはり日が暮れると気温が下がり、夜はとて冷え込みました。防災バスの中には、毛布や温かいお茶、

アルファ米を準備し、夜警の消防団員へ支給をしました。当然、災害を想定して備品等を配備していますが、実際の災害現場で防災バスを使用することについて、消防団員からの要望等を出してもらうことで、改善や装備の充実をさせ、今後の防災バスの運用に生かしていきたいと考えています。

## 6 平常時の運用状況

本市では、今年4月18日に「防災パレード」を開催し、消防団員や消防車両に続き防災バスも走行し、お披露目をしました。

また、平常時には市民の防災意識の向上のための研修や視察にも利用しています。幼・保育園児を対象に開催した地震教室では、初めてみる防災バスの中でビデオを見たりと、子ども達は熱心に話を聞いていました。

## 7 今後の取り組み

災害時の後方支援等を目的とした防災バスの整備は、全国でもめずらしい先進的な取り組みと聞いています。この取り組みを通じて今後も広く市民に防災に対して関心を持っていただき、地域ぐるみで安全安心なまちづくりに向けて、「自助共助」の気持ちを持っていただくように活用していきたいと思っています。